

浅黄編

第3回

毎回人気を呼ぶ大菊拓朗氏（横浜錦鯉）の錦鯉セミナー。今回のテーマは『浅黄』です。

最終回は、⑧浅黄の仕上がり過程および立て鯉の見方、また、浅黄の副産物である赤松葉を見ていきます。

仕上がり過程をみる――

⑧浅黄

次は⑧さん（小千谷市南荷頃「誠養鯉場」）の浅黄で、丸堂さんのところの鯉の兄弟鯉を親にして作っている浅黄です（写真②⑤）。

2才の時（②⑤-1A）で、まだ網目がそんなに綺麗に出ていませんが、これは浅黄の立て鯉としては非常に良いのではないかと思います。これは、林さんにお求めいただいた浅黄です。

この鯉を野池で飼ってどうなったかと言いますと、半年後にこういう姿になりました（②⑤-1B）。これが春

の姿（②⑤-1A）でこれが秋の姿（②⑤-1B）です。6カ月経ってこれくらい肉が入ってきました。これも中越地震で死んだかと思ったんですが、何とか利弘君にがんばって運んでもらいました、助かりました。

緋も非常に綺麗になってきましたし、ボリリュームが付いてきたので、腹の底緋も綺麗に出てきました。これは3才ですが、網目もかなりはつきりしてきました。今ではもうちょっとはつきり出てきています。

次に⑧さんの違うパターンの鯉で、やはり2才の時の姿です（写真②⑥）。これはかなりのスピードで仕上がった鯉なんです。去年の秋、

地震の時に仕入れた浅黄だったんですが、まだ全然網が出てなくて、赤もボヤックとしていました。これが昨年（2004年）11月の姿です（②⑥-1A）。

で、翌年4月の若鯉品評会の時に、こういう姿になりました（②⑥-1B）。半年後の姿ですね。泉水で飼っていただくと、元赤もかなり綺麗に締まってきましたし、網目もだいぶはつき

りと出てきて、ちょっと餌をあげましたのでボリリュームも出てきました。この浅黄は若鯉大会で優勝を取りました。丸堂産をメス親にして、オスは門兵衛さんの鯉で作った浅黄です。

立て鯉をみる――

⑧浅黄

では、実際に⑧さんの浅黄で、



写真②⑤／⑧浅黄

どんなのが良くなるのか、立て鯉の見方をご説明していきます。

3才か2才ですと、こういう感じのちよつと白っぽいような浅黄が良くなつていくと思います(写真27・28)。

これは3才魚です(写真29・30)。これぐらいが立て鯉としてはおもしろくなるのではないかと思います。これは全部兄弟鯉です。

これ(29)は私が一番気に入っていた浅黄です。地震でも助かったんですが、うちの池で死んでしまいました。

この鯉(30)は一番最初に出てきた丸堂さんの浅黄(写真1)2月号参照)に非常に近い浅黄で、これが一番ああいふ浅黄になるんじゃないかとにらんで仕入れたんですが、次の日に飛び出してお亡くなりになり

ました。僕は浅黄にはツイていないのかなあ(笑)。(会場・笑)

浅黄の副産物

赤松葉

今度は浅黄の副産物の「赤松葉」を見てみたいと思います。浅黄を採っていますと、赤松葉というのは必ず出てきます。これ(写真31)は吉識さんの赤松葉ですが、門兵衛ブランドの証である光がちゃんと出てますね。これ(31-A)が3才の時の姿でした。

で、これがどうなるかということですが、1年野池で立ててみますとこうなりました(31-B)。3才の時はかなり前がちの鯉で、後ろが肉

が入っていないかったんですが、4才になってだいぶ後半に肉が入ってきまして、体の作りもバランス良く整ってきました。

この鯉はちよつと遅出来の鯉なので、網目が4才でやっとこのぐらい出てきているんですが、これが5才で野池から揚げつてくると、かなり網も綺麗になってくるんじゃないかなと思います。赤松葉でも銀を噛む、ちよつと珍しいタイプの鯉です。

次は、この鯉(写真32)を見ていただきたいと思います。門兵衛さんの普通の赤松葉です。3才の時に求めた赤松葉ですが、まだ網がはつきり出ていませんでした(32-A)。赤もまだちよつと「どうかな」とい

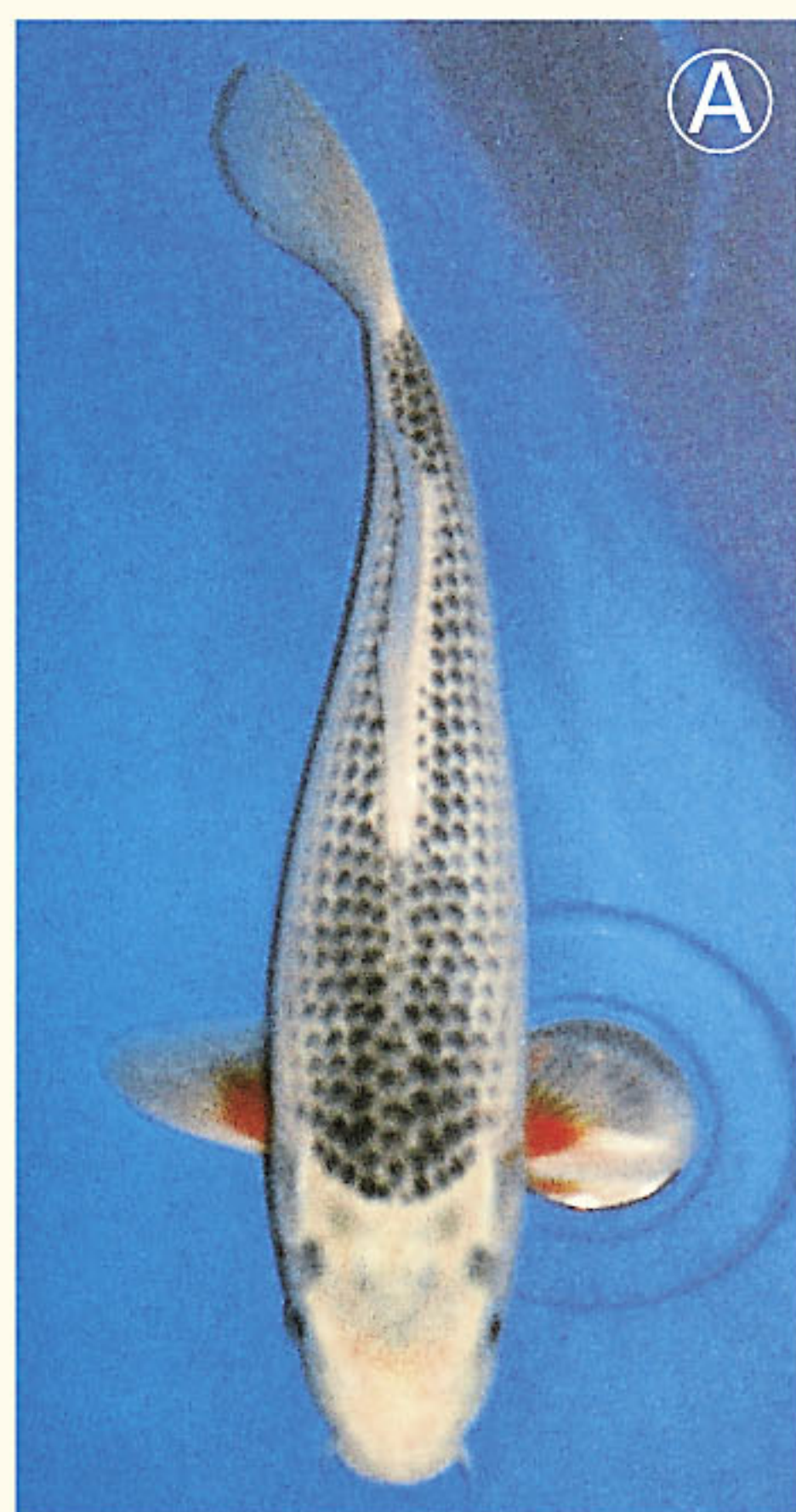
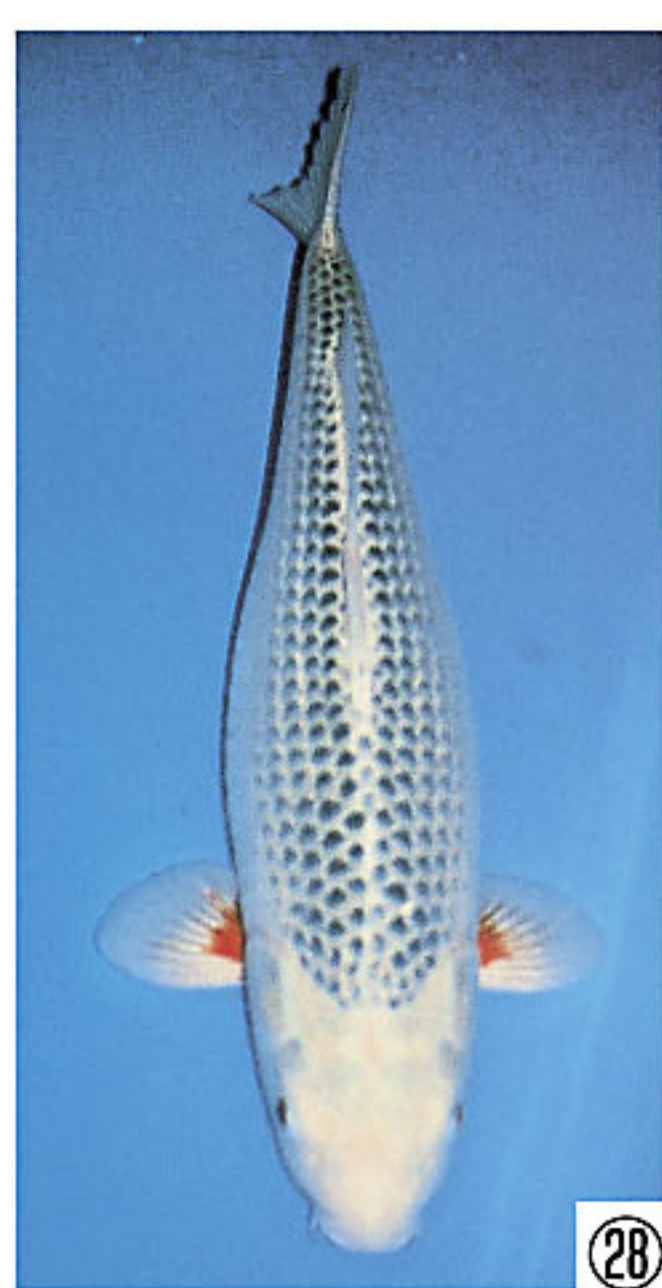


写真26 / 誠浅黄



う色合いでした。

これを半年立てたらここまで綺麗になりました(③2-B)。金魚みたいな綺麗な赤になって、網もはつきり出てきました。これは吉識さんの今は亡き名品です。(会場・笑)

浅黄は地味ではあるんですが、派手に仕上がってくると、おもしろくなる、そういう魚じゃないかなと思っています。

Q & A

鳴海浅黄と群青浅黄(※)

丸堂さんの、鱗の玉がかなり濃くなる浅黄は群青タイプで、門兵衛さんや細海さんなどは鳴海が基本ですね。現在は両方を掛け合わせた中間的な鯉が多くなっています。

古い群青浅黄は頭までブルーが強く赤がもっとレンガ色で、現在の浅

黄とは色かなり違います。現在の、頭が綺麗で洗練されている鯉を作ろうとすると、色合いが鳴海浅黄に近くなるんじゃないかと思っています。

逆目の浅黄は 小さいころからわかるの？

門兵衛 2才にならないとわからないですね。それに作ろうと思ってもなかなかできません。率がすごく悪いんです。商品になるものは(1腹

で)1本か2本出ればいいかなという具合です。

浅黄の緋はレンガ色だが

紅白のような紅にはならないか

たまにそういう紅の鯉はいますね。赤松葉でもそうですが、先ほどの吉識さんの鯉(写真③2)は綺麗な赤になりました。3才の時はそんなに真っ赤じゃなかったもので、そういう素質のある魚がいるんでしょう。



写真③2／赤松葉



写真③1／赤松葉



平澤利弘さん(丸堂養鯉場)



宮賢太郎さん(宮石養鯉場)



大塚嘉和さん(大塚養鯉場)

※背の青色が黒に近い濃紺のものが群青浅黄。青色が薄く水色に近いものを水浅黄、中間色のものを鳴海浅黄という。